

平成27年度日本NGO連携無償資金協力

「2州における農業協同組合の有機農産物販売強化を通じた 貧困削減事業（フェーズⅠ）」

スバイリエン州農産物組合（SAC）出荷センター 完成式典開催

平成28年8月30日（火）、平成27年度日本NGO連携無償資金協力（供与限度額338,963米ドル）により建設されたスバイリエン州農産物組合（SAC）の出荷センター完成式典が、スバイリエン州で開催されました。右式典には、カンボジア政府からマム・アムノット農林水産省長官、スバイリエン州からパウ・ソピアップ副知事、日本国大使館から藤本書記官が出席して祝辞を述べるとともに、その他SACや近隣農協の関係者、地域住民等約120人が参列しました。



本事業を実施している認定NPO法人IVYは、1999年から17年にわたりスバイリエン州でSACの立ち上げや運営・経営能力の向上、供給網の強化、生産強化を目指した支援を行い、農家の所得向上のみならず国内野菜の消費促進にも貢献してきました。本事業において、スバイリエン州でSACの出荷センターが建設されることで、今後も継続的な野菜の出荷が行われ、持続的に組合活動が行われるとともに、同州および他州農協のモデルとなっていくことが期待されています。

式典ではパウ・ソピアップ副知事によるスピーチ、マオ・シタSAC代表による報告、IVYの松浦あゆみプロジェクト・マネージャーによる報告に続き、藤本書記官がスピーチを行い「IVYと農家の方々の尽力により、SACは今では多くの野菜をプノンペンのスーパーマーケット等に出荷出来るようになった。今回建設された出荷センターにより、多くの農家が所得を増加させ、生活の質を向上させることを願う」と述べました。続いてマム・アムノット長官が日本国政府への感謝の意を伝えるとともに「カンボジア政府は常に、草の根レベルの人々のニーズを見つけるように関係者に伝えており、様々な機能を備えたSAC出荷センターは、人々のニーズに応えるための解決策の一つである。組合は、効率的で持続的な組織運営を行うため、関係者との良好な協力関係を築くように努力して欲しい」と述べました。その後、SAC出荷センターの見学が行われ、式典は無事終了しました。



スピーチを行う藤本書記官



松浦あゆみ I V Yプロジェクト・マネージャー



藤本書記官によるリボンカット



来賓によるリボンカット



日本NGO連携無償資金協力で建設された出荷センター



出荷センター内。集荷後、野菜を洗浄するスペース